希少植物の最適環境の把握と、地域内外の人材による持続可能な保全体制の構築支援

【目次】

P1-2　助成事業の目標
P3-4　実施内容・工夫点及び他団体連携での留意点
P5　得られた成果
P6　残された課題とその原因
P7　今後の対策（受益者の新たな課題・ニーズ）

2024.3.8 NPO法人ホールアース自然学校

1.助成事業の目標（1/2）

MCF
Mobile Communication Fund
ドコモ市民活動団体助成事業

実施内容1：該当種の生態に適した環境創出【専門家との調査・分析】

活動の目標（アウトプット）

①講師による講座（5回）：
専門家による講義（オンライン含む）、現地視察、現地調査

②各日（5-10回程度）：
保全状況に関する助言や保全計画策定に向けたweb会議での検討

活動の成果（アウトカム）

・該当地における該当種の生育状況が明らかになる
・該当地における該当種の理想的な環境が検討される
・保護の会と専門家が連携し、科学的知見に基づいた保全管理計画が検討される

［数値目標］

・開花個体数：維持or増加
・個体数：生育段階に応じて、各個体数が定量的に把握される
・最適環境：該当地における最適な環境が、専門家と保護の会との間で共通認識として理解される
・保全管理計画：上記3点の情報を土台にした計画の素案が策定される

1.助成事業の目標（2/2）

MCF Mobile Communication Fund ドコモ市民活動団体助成事業

実施内容2：担い手人材育成講座【地域内外で守る仕組みを目指した人づくり】

活動の目標（アウトプット）
講義内容（全7回）：希少種について1・2・3、現地保全活動1・2・3、まとめ

活動の成果（アウトカム）
・希少種に対する深く正確な知見が取得される
・自主的な保全意識が向上する
・保護の会活動（保全管理活動・盗掘パトロール等）への自発的な参加が起きる

［数値目標］
・保護の会への、当会育成人材の入会が1-2名/年
・保護の会以外の保全活動への参加者が1-2名/回・年
※希少種保全の観点及び会の意向から、不特定多数ではなく、特定少数を確実に育成する方針
※万が一、本プロジェクトに参加することを「利用」し盗掘などを行おうとする者がいた場合にも特定しやすい人数
・盗掘（と思われる個体・形跡）が5株以下/年

2.実施内容・工夫点及び他団体連携での留意点（1/2）

MCF Mobile Communication Fund ドコモ市民活動団体助成事業

実施内容1：該当種の生態に適した環境創出【専門家との調査・分析】

該当種の研究に従事する研究者を招聘し、現地での環境や生育期・開花期・果実期それぞれにおける該当種の個体数及び生育状況を調査することで、現地における該当種の生育状況を把握するとともに、保全に向けた最適な環境を創出するための分析及び検討を行う

▶工夫点及び他団体連携での留意点

・「**つながりのある専門家**」を選定する

・そのコミュニティにとっての「**最適**」を考える

・関係者「**全員**」で「**オープンな対話**」を心がける

2.実施内容・工夫点及び他団体連携での留意点（2/2）

MCF Mobile Communication Fund ドコモ市民活動団体助成事業

実施内容2：担い手人材育成講座【地域内外で守る仕組みを目指した人づくり】

希少生物の存在意義や保全への取組み、盗掘の現状を理解するとともに、保護の会の活動をサポートできる人材の育成を行っていく

▶工夫点及び他団体連携での留意点

・「**ホールアースさんなら**」という信頼を決して裏切らない

・「**信頼・対話**」をベースに「**念入りすぎる**」対策を行う

・参加者の「**主体的参加**」を促す講座の仕立てにデザインする

3.得られた成果

MCF
Mobile Communication Fund
ドコモ市民活動団体助成事業

成果1：新たな人材・専門家・保護の会・当会の垣根を超えた「チーム感」の醸成

→予定通り合計4回の講座を実施、誰もが「希少種保全」という共通の目標に向かってフラットに意見出しができる環境や関係の創出に成功

成果2：新たな人材が保護の会への加入を表明

→「主体的参加」を促す講座デザイン及び成果1により、3名中2名が「加入」を表明、1名も加入は検討中であるものの活動には継続的に参加することを表明

成果3：保護の会の他メンバーや静岡県の環境部局の興味・関心の向上

→会長及び副会長と関係性が構築できたことで、会長から会の他メンバーや保全に関連する静岡県の環境部局へ保全への機運が伝播し、交流の機会が創出

成果4：専門家を介して他自生地の活動者と交流が創出

→互いの情報の出し具合を専門家が入ることで調整してくれ、程よい交流に

4.残された課題とその原因

課題1：該当種の個体数全ての把握の限界

原因
→数百単位で生育する個体を科学的に調査したい反面、時間がかかりすぎる為

対策
→環境条件の異なる複数の生育地をそれぞれコドラートに区切り、その中を集中調査する

課題2：盗掘防止パトロールの人為的限界

原因
→新たな人材こそ加わるが平日稼働は難しく、開花期に張り付くことも困難な為

対策
→デジタルツールを導入し、人為的負担を減らしつつ対策の質の担保を検討中

5.今後の対策（受益者の新たな課題・ニーズ）

MCF
Mobile Communication Fund
ドコモ市民活動団体助成事業

受益者の課題：保護の会の他メンバーへのさらなる周知・発信

対策
→文章などで伝えるよりも、実地での活動を通して伝えることが効果的であると前期の活動の中で気づきがあった為、予定していた「会報」に加え、本プロジェクトでの活動日に積極的に保護の会の他メンバーを参加させる

受益者のニーズ：新たな生育地（未発見地）の発見

対策
→現在の生育地に万が一の有事があった場合や遺伝的な多様性を担保する為、GISなどを用いて当該生育地と類似した環境を持つ箇所を分析・推定した上で、実地調査を行うことを検討中